

基礎講座 7

決算書について理解しよう（貸借対照表）

精算表が作成されれば、残りは、決算書の作成になります。

【決算書とは】

導入講座で学習しましたが、決算書とは、貸借対照表と損益計算書のことをいいます。貸借対照表とは一定時点における企業の財政状況を表しています。ですから表では、月 日現在となります。また損益計算書では、一定期間における企業の経営成績を表していますので、表では 月 日から 月 日までという期間で表示します。

例を上げるならば、あなたが12月31日現在でいくらお金（お金に換金できるもの）があるのか、またはいくら借金があるのかを表したものが貸借対照表であり、1月1日から12月31日まででいくらの収入が（支出）があったのかを表すのが損益計算書です。

貸借対照表は下図のようになっています。

【貸借対照表】

貸借対照表  
平成 年 1 2 月 3 1 日

ぼんぼん商店 (単位：円)

資産		負債及純資産	
金額	金額	金額	金額
現金	140,000	借入金	60,000
売掛金	80,000	当期利益	40,000
商品	80,000	資本金	200,000
	300,000		300,000

簡単な貸借対照表を見てみましょう。ここでは、12月31日現在で現金が140,000円、売掛金が80,000円（商品を販売して後日に代金を受け取るお金）、商品が80,000円分あります。また資本金が200,000円あり、借り入れ金が60,000円当期の利益が40,000円となります。

【貸借対照表初心者のために】

貸借対照表は、基礎講座6で学習した精算表から作成します。精算表の一番右の欄を切り取ったものが貸借対照表になります。

基礎講座6より一部抜粋

勘定科目	残高試算表			貸借対照表	
	借方	貸方		借方	貸方
現金	500		500		
借入金		200		200	
資本金		100		100	
売上		700			
仕入	500				
	1000	1000			
利益				200	
			500	500	

この部分が貸借対照表となります。

基礎講座 8

決算書について理解しよう（損益計算書）

ここでは、もう一方の決算書、損益計算書について学習します。

【損益計算書とは】

損益計算書とは、基礎講座7でも説明しましたが、一定期間における企業の経営成績を表した一覧表のことをいいます。損益計算書は下図のようになっています。

【損益計算書】

ぼんぼん商店 (単位：円)

損益計算書			
	自 平成 年 1 月 1 日	至 平成 年 1 2 月 3 1 日	
費用		収益	金額
売上原価	140,000	売上高	300,000
給料	80,000		
当期利益	80,000		
	300,000		300,000

さてここでも簡単に損益計算書を見てみましょう。ここでは1年間に売上が300,000円ありました。しかし商品の原価に140,000円、社員の給料に80,000円支払ったので利益は80,000円になります。

【損益計算書初心者のために】

損益計算書は、基礎講座6で学習した精算表から作成します。精算表の損益計算書欄を切り取ったものが損益計算書になります。

基礎講座6より一部抜粋

勘定科目	残高試算表			損益計算書	
	借方	貸方		借方	貸方
現金	500				
借入金		200			
資本金		100			
売上		700		700	
仕入	500		500		
	1000	1000			
利益			200		
			700	700	

この部分が損益計算書となります。

【会計期間について】

また損益計算書作成の一定期間とは、簿記では通常1年です。期間の始まりを期首、期間の終わりを期末、期首から期末までの間を会計期間と呼びます。（導入講座で学習済）なお簿記の3級では個人企業を前提としているので1月1日から12月31日までです。

